

太刀 佐国 忠次 昭和

「肥前国忠次作」

中尾三治郎。

明治四十三年生。

弟に藤田忠光がいる。

昭和十四年振井俊孝に入内。

海軍受命刀工。

佐賀県 多久市住。

平成二十六年九月十九日 資料

刃長 66.7cm (二尺二寸一厘)

先重 0.47cm (0.46cm)

茎中 1.15cm

反り 1.87cm (六分三厘)

切先長 3.72cm

茎元重 0.66cm (0.62cm)

元中 3.08cm (3.01cm)

茎長 19.4cm (19.7cm)

茎先重 0.32cm (0.30cm)

先中 2.03cm (2.00cm)

茎反り 0.18cm

元重 0.66cm (0.61cm)

茎元中 2.63cm

鎬造、庵棟低く、鎬巾は狭めて鎬は低く、重ねと身中の尋常な造込みとなる。先中を頃合いに落とし切先は中切先でフクラはやや枯れる。反りは腰反りが高く踏張りがつき先反りが加わる。大戦初期の軍刀姿となり、肉置きは良いが地ムラが目立つ。

地鉄は小板目がよく約んで細かな地沸がたま、淡く焼出し映りが長われる。現状の研磨では映り、地色・その明るさも不明。

刃文は中直で浅く汚れごころがあり、刃中は小足が入り、佩裏の区から12cmの所に筋を一つ焼く、匂口は明るい。

帽子は直ぐで先は小丸、返りは短かい。

茎は生ぶ、長さは尋常で反りは高く、刃方を張らせて先を狭め、茎尻は刃上り栗尻、刃角□■■■棟角□■■■

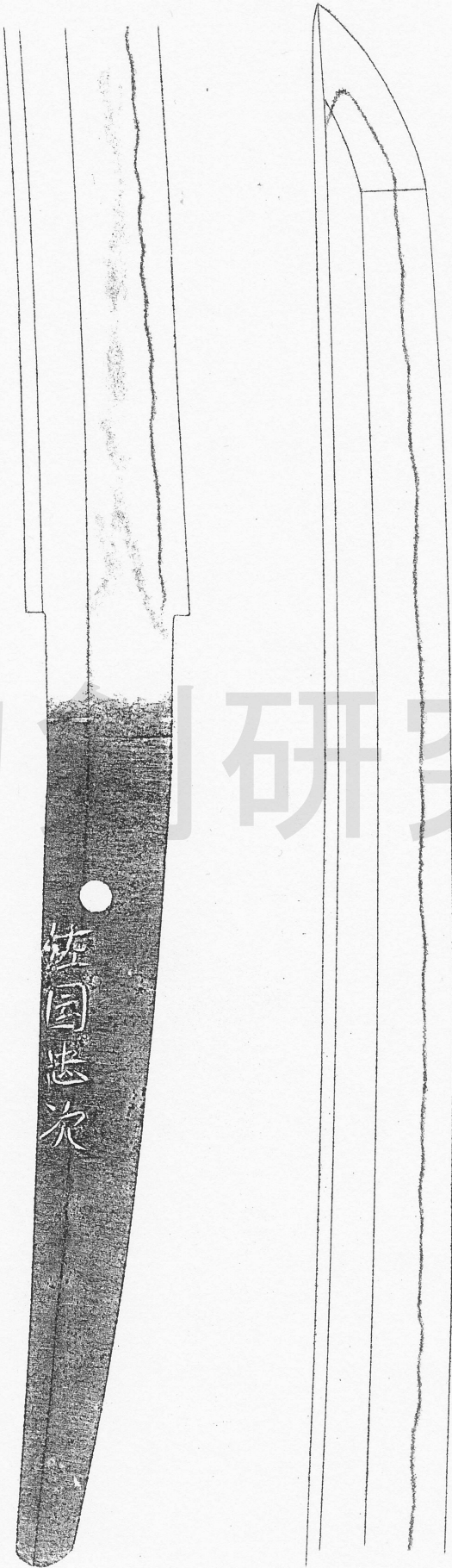
茎の刃多稜刃に先までの鑲目は切り、鎬地と平地の鑲目は切り、目釘穴は一個、銘は鎬筋にかかりながら鎬地に

太刀銘を切る。

時節が多細かな所を省略しているが反りの高い姿を上手にまとめている。地鉄は綺麗で美しく直刃の匂口は明るい。

ブザを斬ったところ斬味良好、刃持ちも良い。もう少し刃身の反りが浅く、茎も反らなければ是非に使用したい

刀である。さらに腰があり曲がりにも強い。



刀研究